

米国農務省穀物等需給報告(2014年6月11日発表のポイント)

平成26年6月12日
大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、6月11日(現地時間)、2014/15年度の2回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

—2014/15年度の穀物全体及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み—

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億4,104万トン(対前年度比 0.9%減)
- ② 消費量:24億3,195万トン(対前年度比 0.7%増)
- ③ 期末在庫量:5億1,185万トン(対前年度比 1.8%増)
期末在庫率:21.0%(対前年度差 0.2ポイント増)

【主な品目別の動向】

小麦 :生産量は、EUで春以降の降雨により単収上昇が見込まれ増加、インド、中国等でも増加するものの、米国大平原南部で乾燥の影響等により減少、カナダ、ウクライナで収穫面積の減少と単収の低下により減少となること等から、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量もEU等で増加するものの、世界全体では史上最高を記録した前年度をわずかに下回る見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:7億162万トン(対前年度比 1.7%減)・・・EU、インド、中国等で増加、カナダ、米国、ウクライナ等で減少
- ② 消費量:6億9,906万トン(対前年度比 0.6%減)・・・EU等で増加
- ③ 期末在庫量:1億8,861万トン(対前年度比 1.4%増)・・・中国等で増加
期末在庫率:27.0%(対前年度差 0.5ポイント増)

とうもろこし :生産量は、中国、アルゼンチン等で増加するものの、ウクライナで通貨安による資材コストの上昇から単収低下が見込まれ減少(ハイブリッド種子の導入により前月より上方修正)、ブラジル等で減少することから、世界全体では前年度をわずかに下回る見込み。また、消費量は、中国、旧ソ連諸国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:9億8,112万トン(対前年度比 0.1%減)・・・中国、アルゼンチン等で増加、ウクライナ、ブラジル等で減少
- ② 消費量:9億6,752万トン(対前年度比 1.7%増)・・・中国、旧ソ連諸国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億8,265万トン(対前年度比 8.0%増)・・・米国等で増加
期末在庫率:18.9%(対前年度差 1.1ポイント増)

米(精米) :生産量は、中国等で増加することから、世界全体では史上最高の前年度を更に上回る見込み。また、消費量も中国、インド等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:4億8,072万トン(対前年度比 0.7%増)
- ② 消費量:4億8,218万トン(対前年度比 1.4%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億1,067万トン(対前年度比 1.3%減)
期末在庫率:23.0%(対前年度差 0.6ポイント減)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国、ブラジルで収穫面積の増加と単収の上昇により共に史上最高となること等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量も中国、アルゼンチン等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:2億9,999万トン(対前年度比 5.7%増)・・・米国、ブラジル等で増加
- ② 消費量:2億8,063万トン(対前年度比 3.9%増)・・・中国、アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量:8,288万トン(対前年度比 23.4%増)・・・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加
期末在庫率:29.5%(対前年度差 4.7ポイント増)

担当:大臣官房食料安全保障課 松井、浅田 (内線3805)

(参考1)

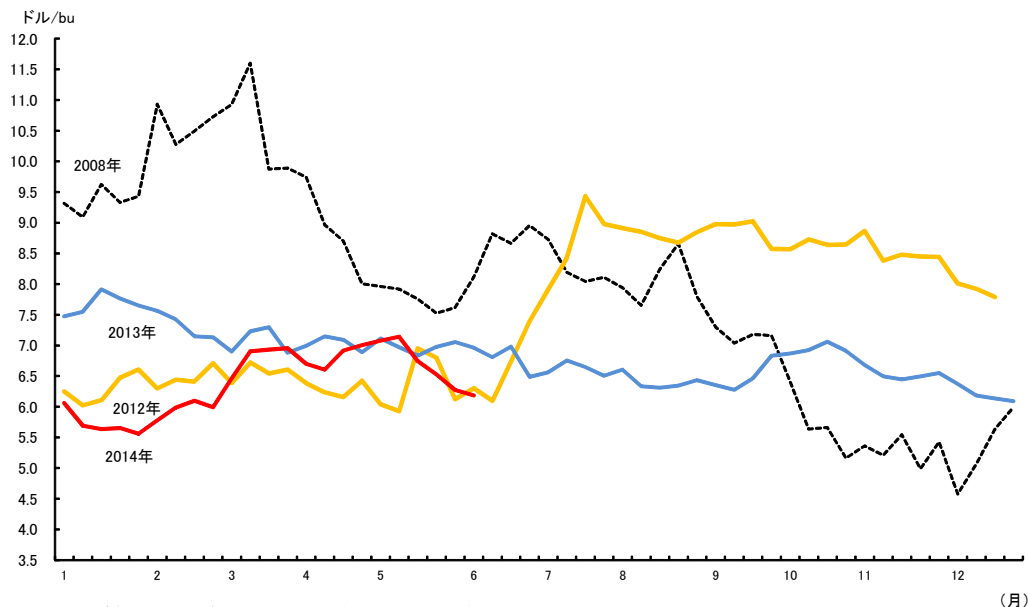
平成26年6月12日
大臣官房食料安全保障課

世界の穀物の価格動向(2014年)

- 小麦:6.18ドル/bu(前年同時期の価格:6.96ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国冬小麦地帯での乾燥の継続から一旦値を上げたものの、2月以降の降雨・降雪による乾燥懸念の緩和から7ドル/bu前後に値を下げた。3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったものの、4月以降、米国で冬小麦の凍害や乾燥による作柄の悪化懸念、春小麦の作付け遅れ等から6ドル/bu台後半から7ドル/bu台前半で推移した。6月以降は中国の旺盛な輸入需要があったものの、米国産冬小麦及び春小麦、北半球の小麦生産地での収穫の進展と世界全体の豊作見込みから、6ドル/bu台半ばで推移。9月中旬以降、アルゼンチンの霜害による作柄不安や四半期在庫報告での米国産への旺盛な飼料用需要等から一時7ドル/bu台に値を上げたものの、10月中旬以降は、2014/15年度の米国産冬小麦等の初期生育が順調なことや、カナダ、豪州の潤沢な輸出余力から値を下げ、その後も、カナダの史上最高の生産量見込み、豪州の生産量の上方修正等による世界的に豊富な供給量見込みや米国産の低調な輸出需要等から2014年1月には5ドル/bu台に値を下げた。

2014年2月以降、米国大平原南部の寒波による凍害や乾燥型の天候による冬小麦の作柄悪化懸念、ウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から7ドル/bu台前半まで値を上げたものの、5月中旬以降、世界在庫が潤沢であることや米国大平原南部での降雨による作柄改善期待の高まりから、現在は6ドル/bu台前半まで下落。

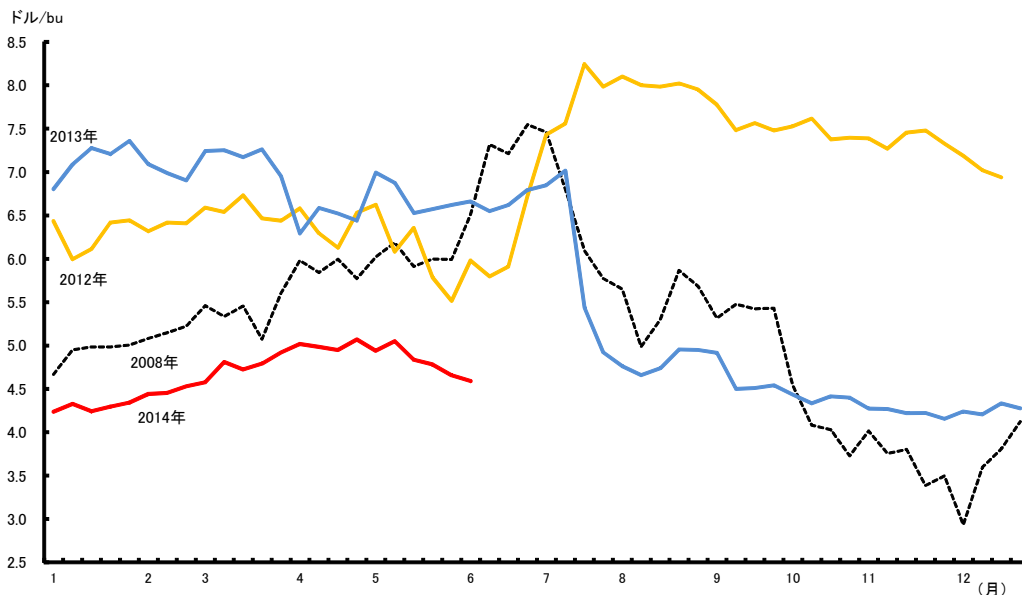


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし: 4.59ドル/bu(前年同時期の価格: 6.66ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、米国のエタノール生産は減少したものの、飼料用需要の増加やアルゼンチンの高温・乾燥天候から7ドル/bu台前半に値を上げた。2月以降、米国の輸出需要の不振やブラジルの豊作見込みから一旦値を下げたものの、3月以降、飼料用需要、エタノール生産の増加等の需要回復見込みから7ドル/bu台前半に再び値を戻した。その後、3月末の米国四半期在庫報告での市場予想を上回る在庫から値を下げたものの、4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れから値を上げた。5月中旬には天候の回復による作付けの進展から6ドル/bu台後半に下げたものの、その後は旧穀の需給の引き締めから、7ドル/bu前後に上昇した。7月中旬以降、2013/14年度の米国産の豊作見込みから、4ドル/bu台後半に大きく下落し、8月以降も、米国産の生育の遅れや米国コーンベルトの降雨不足傾向があったものの、収穫の進展と豊作見込みから値を下げた。さらに11月以降、米国環境保護局のエタノール向け使用義務量の引き下げ提案や、収穫が終了し米国産とうもろこしの大豊作が確定的となったことから4ドル/bu台前半まで低下した。

2014年1月半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念に加え、米国コーンベルト北部での低温多雨による作付遅延懸念等から5ドル/bu前後に上昇した。5月以降、米国の好天による作付けの進展から、現在は4ドル/bu台半ばまで下落。

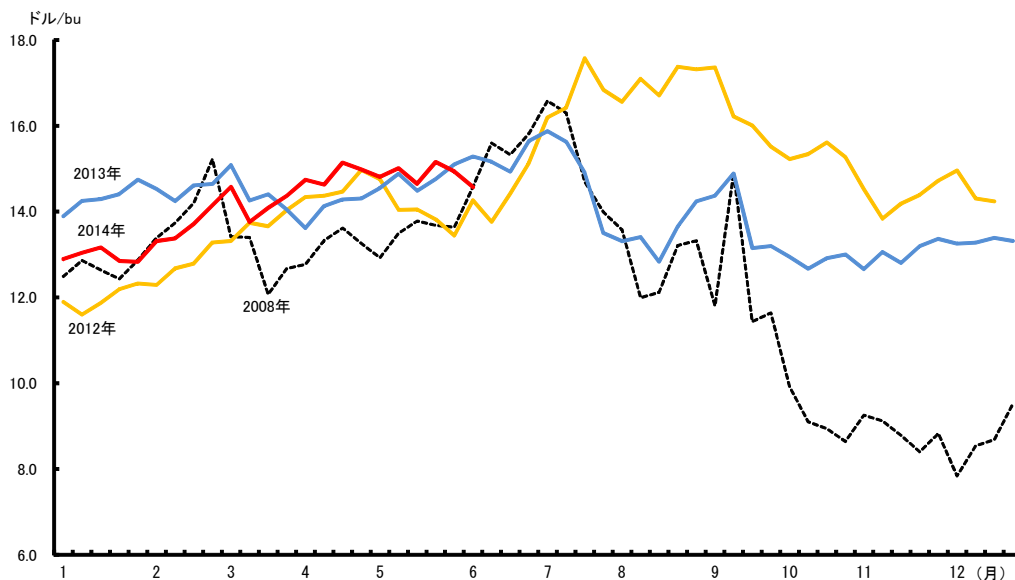


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆: 14.57ドル/bu(前年同時期の価格: 15.28ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における6月第1週末の期近価格。)

2013年1月以降、好調な輸出成約やアルゼンチンの高温・乾燥天候から値を上げたものの、2月以降、アルゼンチンの天候回復やブラジルの豊作見込みから一時値を下げた。その後、米国の堅調な輸出需要から値を戻したものの、3月中旬から南米の収穫の進展や3月末の米国四半期在庫報告で市場予想を上回る在庫となったことから値を下げた。4月中旬以降、米国で低温多雨型の天候による2013/14年度の作付け遅れや、旧穀の需給の引き締めから16ドル/bu前後に上昇したものの、7月中旬以降、米国産の豊作が見込まれたことから、13ドル/bu台後半に下落。8月以降、米国産の降雨不足による作柄への影響が懸念され14ドル/bu台後半まで値を上げたものの、9月中旬以降は、降雨による作柄の回復や収穫の進展から値を下げた。11月半ば以降、南米では作付けが順調に進み、その後の生育も良好であったことから12ドル/bu台後半から13ドル/bu台前半で推移した。

2014年2月以降、米国の堅調な輸出需要に伴う需給の引き締めやブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から値を上げたものの、5月以降、米国の好天により作柄は総じて良好なことから、現在は14ドル/bu後半で推移。

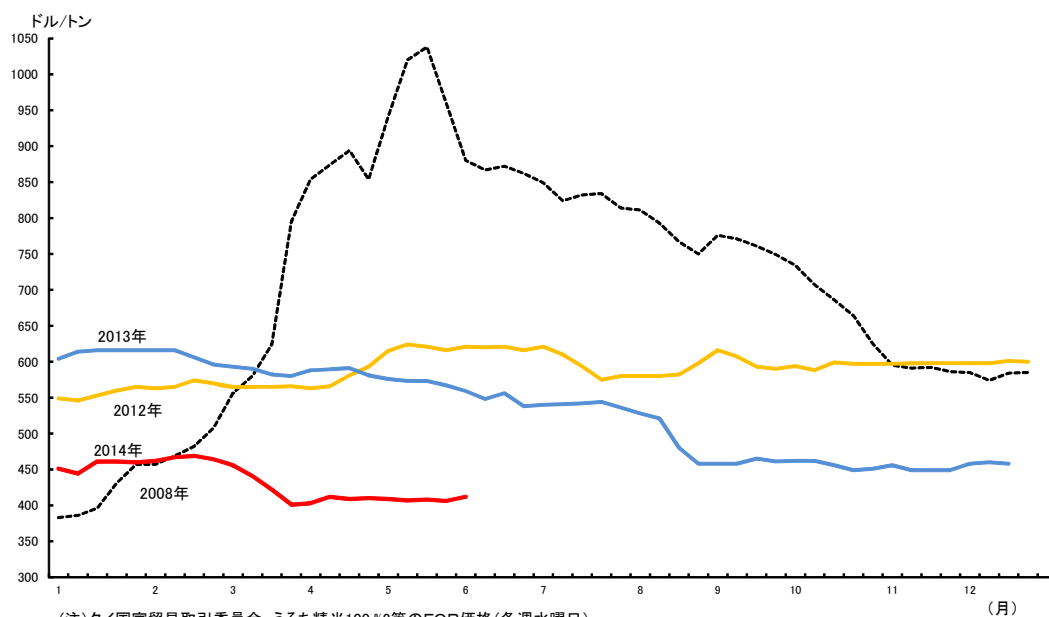


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

● 米:412ドル/トン(前年同時期の価格:559ドル/トン)
 (価格は、タイ国家貿易取引委員会における6月第1水曜日のFOB価格。)

2013年1月以降、輸出向け供給量の引き締めから価格は堅調に推移したものの、2月以降、タイにおける政府在庫の放出や輸出需要の動きが鈍いこと等により、500ドル/トン半ばから後半で推移し、8月中旬以降にも政府在庫の放出により400ドル/トン半ばまで低下した。

2014年3月以降、タイにおける再度の政府在庫放出により値を下げ、現在は400ドル/トン前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年1月	2月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	89.18	93.21
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
94.75	97.71	101.08	97.43	99.71	97.87	99.24	97.85	100.03	103.46
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
103.94	102.13	102.27	102.56	101.79					

出典: 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
49.38	41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	42.80	44.00
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
46.00	45.60	44.00	44.25	45.40	44.25	45.75	51.00	51.75	54.80
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
53.75	50.25	48.25	45.60	44.25					

出典: 米国(ガルフ)–日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年1月	2月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	94.83	95.32
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
92.96	92.07	94.80	95.80	104.70	106.54	106.24	100.55	93.93	97.89
26年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
94.86	100.68	100.51	102.03	102.10					

出典: 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成26年5月, 131頁
但し、26年5月は、「U.S. Energy Information Administration」の5月30日までの週別価格の平均値。